

[011] 九州大学低温センターだより表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/1866702>

出版情報：九州大学低温センターだより. 11, 2017-03. 九州大学低温センター
バージョン：
権利関係：

巻頭言

平成 28 年度より、低温センター副センター長、及び箱崎地区のセンター長を拝命いたしました。私自身は、大阪大学の学生時代から現在に至るまで、量子伝導現象の研究を行っており、ヘビーユーザーではないものの、研究において液体ヘリウムの恩恵は存分に受けており、その貴重さも身に染みて理解し育ってきたつもりです。当時は、液体ヘリウムの供給量に限界があったのと低温物性実験のピークの時期であったため、供給権を獲得するために、早朝から低温センターに並んだことを覚えています。あれから、十数年が経ち、現在では入手するのは以前ほど困難ではないみたいではありますが、今でも容易でない研究機関も多いと思われます。その点、この九州大学においては、歴代の運営に関わってこられた先生方、及びセンター職員の皆さまのご尽力のお陰で、世界でも有数の素晴らしいインフラが整っています。必要なときに寒剤が供給されるというのは、ずっと中にいると、一見当然と思いがちですが、大変貴重な環境であり、日々のメンテナンスを実施してくれているセンター職員の努力があつてのことと思います。今後、このような環境をよりよく維持するために、副センター長としてできることから、コツコツと実行へと移していきたいと考えております。

平成 28 年度に関しましては、理学部が伊都地区に完全移転し、研究も活発化しました。箱崎の老朽化した設備と比較すると、色々と改善がなされたとは思いますが、一方で、様々な問題も顕在化してきたかと思えます。我々運営側としましては、より一層、学内のユーザーに、快適に安心して寒剤を使用して頂けるよう努力を続けてまいります。本センターには、寒剤供給だけでなく、寒剤を使った複数の実験設備の共同利用も可能となっております。このような優れたインフラのプレゼンスを学内外にアピールすることで、更なるユーザー増大につなげたいと考えています。ヘリウムガスに関しては、一時期のガス不足に比べると、比較的安定しているように思いますが、世界情勢を見ると何が起るかもわかりません。100%輸入に頼っている日本の状況から、回収率を向上させるのは、必要不可欠な努力となっております。回収率の向上は、寒剤単価の低下にもつながりますので、この点、何卒、ご協力のほど、よろしく申し上げます。また、農学部の移転等によるキャンパスの拡張に伴い、高圧ガス取り扱いなどの安全面に関するコンプライアンス向上も必要です。低温センターでは、寒剤・高圧ガス取り扱いに関する講習会なども、引き続き、主導となって開催していきたいと考えています。また、増えるユーザーに備えての液化設備の増強なども必要となるため、その準備も検討していきます。

これら一連の低温センターの設備や活動が、利用者の皆様の外部資金獲得や外部との共同研究の一助となる事を願っており、また、そのユーザーの活動が、更なる設備更新につながると考えております。引き続き、皆様のご支援とご協力を、宜しく申し上げます。

最後に、本稿でご執筆頂きました先生方には、年度末のお忙しいところ貴重なお時間を頂きまして、誠にありがとうございました。最新の研究内容に加え、低温技術や、安全に関してまで、非常に充実した内容とすることができました。ここに、お礼申し上げます。

九州大学 低温センター 副センター長
木村 崇